

## 袋井市教育委員会 会議録（要旨）

会 議 名	平成29年11月 袋井市教育委員会 定例会
招集日時	平成29年11月22日（水）午後 1 時30分
会議時間	午後 1 時30分から午後 4 時20分まで（2 時間50分）
場 所	袋井市立袋井学校給食センター
出 席 者	鈴木典夫 教育長 前嶋康枝 委員 上原富夫 委員 豊田君子 委員 大谷純應 委員  (計：5人)
欠 席 者	無し
傍 聴 者	無し
当局出席者	早川俊之 教育企画課長 川村佳典 おいしい給食課長 乗松里好 すこやか子ども課長 鴻野元希 育ちの森所長 平野邦孝 学校教育課長 杉山明子 生涯学習課長 山本義孝 袋井図書館長 嶋田 修 教育企画課幼小中一貫教育推進室主幹 伊藤千ひろ 教育企画課総務企画係長 (合計：9人)
会議に付した 事件	別紙「平成29年11月 袋井市教育委員会定例会 議事日程」の とおり

## 平成 29 年 11 月 袋井市教育委員会定例会 日程

日時：平成 29 年 11 月 22 日（水）午後 1 時 30 分開会

場所：袋井市立袋井学校給食センター

### 会 議 日 程

日程第 1 開 会

日程第 2 会議録署名委員の指名

日程第 3 会議録の承認

日程第 4 教育長報告

日程第 5 教育部月例事業報告

日程第 6 議 事（会議に付すべき事件）

#### （1）協議事項

協第 50 号 平成 29 年度袋井市一般会計補正予算（第 4 号・民生費・教育費）について

協第 51 号 幼小中一貫教育の推進（望ましい幼小接続のあり方）について

協第 52 号 就学前の子どもの教育・保育のあり方に関する基本方針（案）について

協第 53 号 袋井市子ども・子育て支援事業計画の中間見直し（案）について

協第 54 号 （仮称）袋井南認定こども園の整備について

#### （2）報告事項

報第 112 号 「（仮称）袋井市教育施設等 3 R プロジェクト」の基本的な考え方について

報第 113 号 袋井市立小中学校における児童生徒数等の動向と課題について

報第 114 号 袋井市「学校給食献立コンテスト」の取りやめについて

報第 115 号 学校給食における喫食率及び摂取カロリーについて

報第 116 号 袋井市子ども・子育て会議委員の委嘱について

報第 117 号 寄附金の受納について

報第 118 号 指定学区外就学及び区域外就学の許可について

報第 119 号 浅羽西公民館（事務室）の一部増築について

## 日程第7 その他

### (1) 連絡事項

- ア 幼小中つながる通信 vol.33～vol.35
- イ 平成30年袋井市成人式の開催について
- ウ 袋井市立図書館だより「ふくぶっく」平成29年12月号

### (2) 次回定例会等の予定について

12月定例教育委員会

12月26日(火)午後1時30分～ 袋井市役所302会議室

### (3) その他

## 日程第8 閉会

(午後4時20分閉会)

## 平成 29 年 11 月 袋井市教育委員会定例会 会議録（要旨）

### 1 開会

#### ●鈴木教育長

それでは、ただ今から、平成 29 年 11 月袋井市教育委員会定例会を開会させていただきます。本日は、所用により教育部長が欠席しております。御了承ください。

### 2 会議録署名委員の指名

#### ●鈴木教育長

袋井市教育委員会会議規則第 16 条第 2 項の規定に基づき、前嶋康枝委員 及び 大谷純應委員 を指名いたします。

### 3 会議録の承認

### 4 教育長の報告

#### ●主な報告事項

- ・平成 29 年度第 2 回総合教育会議（10 月 27 日）
  - ・第 4 回新袋井フォーラム講座（11 月 18 日）
- その他は資料のとおり

### 5 教育部月例事業報告

#### ●教育企画課

- ・平成 29 年度ありがとうキャラバン（10 月 26 日、11 月 12 日、19 日）
- ・第 4 回新袋井フォーラム講座（11 月 18 日）

#### ●おいしい給食課

- ・ふれあい夢市場パネル展示（11 月 12 日）
- ・全国学校給食会協会取材（中部学校給食センター・袋井西小）（11 月 15 日）

#### ●学校教育課

- ・授業改善推進校研修会（11 月 15 日、20 日）

#### ●すこやか子ども課

- ・保幼小接続先進地視察（10 月 30 日）
- ・子育て支援センターフェスティバル（11 月 7 日）
- ・第 3 回袋井市の就学前の子どもの教育・保育のあり方検討委員会（11 月 9 日）
- ・第 2 回袋井市子ども・子育て会議（11 月 9 日）

#### ●生涯学習課

- ・自然観察教室（化石教室）（11月11日）
- ・第2回少年補導センター運営協議会（11月13日）
- ・青少年問題協議会（11月15日）

[質疑・意見]

なし

## 6 議事

### ●鈴木教育長

議案の審議に入る前に、本臨時会の議案の取り扱いについてお諮りいたします。

協第50号については、議会の議決を経るべき事件に関する議案のため、袋井市教育委員会会議規則第14条の規定により、本議案に係る協議は非公開で行いたいと思いますが、異議はありませんか。

[質疑・意見]

なし

### ●鈴木教育長

それでは、協第50号を非公開といたします。

### 【協議事項】

- (1) 協第50号 平成29年度袋井市一般会計補正予算（第4号・民生費・教育費）について

(非公開)

- (2) 協第51号 幼小中一貫教育の推進（望ましい幼小接続のあり方）について

### ●すこやか子ども課長

本件は、本市における就学前の教育・保育のねらい、及び、幼小接続に向けた円滑な対応について提案するものです。まず、就学前の子どもの成長と教育・保育のあり方については、就学前の子どもは、生活や遊びなどの経験を通して、情緒的・知的に発達し、社会性を養い、人間としてよりよく生きていくための基礎となる力を段階的に獲得し、小学校以降のさまざまな学習についての深い理解と成長を重ねることから、目先ではなく、生涯にわたる学習の基礎を作るものであるということを認識して取り組むことが重要とされています。平成29年3月に、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども

園教育・保育要領が改訂され、3つの要領、指針をできるだけ一致させたことに特徴があり、3つ全てに、幼児教育・保育をとおして、小中につながる3つの資質・能力の育成を目指すこと、また、小学校までに育てほしい10の姿の内容が盛り込まれています。

本市の子どもたちの現状を見ると、学習意欲の低下や、つまずきなどを抱えたままでの進級・進学、学年の進行とともに増大する不登校への課題があり、その改善に向けて小中一貫教育を進めておりますが、加えて、生涯にわたる学習の基礎を作る就学前の子どもの教育・保育のあり方を、改めて見直すことが必要だと考えております。このことから、小学校就学前までに身につけたい力を「生活習慣」、「学びに向かう力」、「思考・表現の基礎となる力」の3つの柱でおさえた10の姿を示し、達成基準を整理しました。さらに、小1プロブレムを解消するため、幼児教育と小学校が学びのつながりを意識して教育活動にあたることができるよう、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを作成し、まずは公立幼稚園教員と小学校の教員の意識の共有化、協力体制を図り、幼児期から一貫した教育を推進し、本市が目指す子ども像である「夢を抱き、たくましく次の一步を踏み出す15歳」を育成してまいりたいと存じます。

次に、幼小接続カリキュラムについてですが、小1プロブレムを解消することも一つの目的ですが、資料のとおり、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムを、公立幼保、小学校の教員が相互理解のもと作成し、児童が学校生活に適應でき、保育のレベルを市全体で保障することができ、さらには、幼児期の終わりまでに育てたい姿を保育者と教員がともに意識して指導することができる点です。私立幼保も今後連携してまいります。カリキュラムの作成は、袋井の就学前教育推進会議で検討する予定です。その他詳細は資料のとおり。

#### [質疑・意見]

##### ●鈴木教育長

ここで協議いただいて、次回の民生文教委員会に提出していきます。

##### ●前嶋委員

幼児期から小学校入学時に育てたい力の達成度評価表の、小学校1年の欄はまだ空欄ですが、ここにどんなことが入りますか。

##### ●教育企画課嶋田主幹

例えば、食事・排泄については、好き嫌いをしないで食べようとする、休み時間にトイレに行くことができるなど、学校に環境が変わった時にどのようにできるかということを中心に考えます。生活リズムの項目では、時計を意識して行動できるとか、ものとのかわりの項目では、複数の視点を知り、気づいたことを探すことができる、多面的にみるなど、思考スキル、小中学校の教科の標準カリキュラムに向けて考える力につながる内容を入れるように考えています。

●豊田委員

いずれはこの表を保護者向けに出すか。その時には、もう少し見やすくしたほうがいいと思う。図式のようにして壁に張れるようにしたら、保護者は見やすいと思う。

●教育企画課長

保護者用には視覚的に訴えるようなものを検討します。

●鈴木教育長

これが私立の運営会議であれば、これでお客さんが来てくれますかということです。本市の公立幼稚園は定員の6割から7割しか満たしていない。本市の幼児教育はこれでやりますと言う時に選んでもらえるか、説得力がありますかということです。この内容とか考え方において、一般の方に方向性を理解してもらえるでしょうか。支持を得られるでしょうか。例えば、英語教育を頑張りますという園がありますし、跳び箱を頑張りますとかありますが、ここではそういうことをやりたいわけではないのです。

●上原委員

幼保小中の連携は図られているのか、図られていないのか。

●教育企画課嶋田主幹

例えば、プリントの配布の仕方一つとっても、幼稚園では横に渡していくが、小学校では後ろに渡していくなど、学校生活、園生活について、相互にまだわからないことが多いです。

●鈴木教育長

つまり、幼保小中の交流はあるが、互いの教育内容の理解までには至っていないということです。

●上原委員

袋井の就学前教育推進会議の第1回から第3回までは、小学校の教員が参加なしとはどういうことですか。

●教育企画課嶋田主幹

小学校の教員に参加の要請をしなかったためです。

●上原委員

それが、交流はあるが連携がないという状況ではないでしょうか。例えば、幼児期から小学校入学時に育てたい力の達成度評価表の小学校1年の欄は空欄ですが、これは幼稚園側から見た記述であって、小学校が考える指標と一致するのでしょうか。これに足していくのは小学校側に縛りになってしまうと思う。

●教育企画課嶋田主幹

これは、アプローチカリキュラムだけを作ろうとしてはじめたが、作業が進むにつれて、スタートカリキュラムとの関連性が高いということが分かって、途中から小学校の教員が入ることとなったためです。今後はこの表を幼小一緒に考えていくので、この内容が修正

されることはあります。

●豊田委員

アプローチ・スタートカリキュラムは5歳の9月からになっていますが、実際は幼稚園に入園した時から始まっていると考えていいですか。

●すこやか子ども課

幼児期から小学校入学時に育てたい力の達成度評価表にある内容とアプローチ・スタートカリキュラムの表をだきあわせて、小学校につなげていく準備段階とするように考えています。

●豊田委員

保育園と幼稚園は実際に違いますが、これから統一されていきますか。

●すこやか子ども課

今後、保育要領が変わって幼稚園に近い内容となってくるので、保育園のほうも同じようにこのような形で進めるようお願いしていきます。私立にも準備ができ次第つなげていき、本市の子どもたちが同じような考え方、同じような基準で、小学校に入る準備ができるようにと考えています。

●鈴木教育長

先日のあり方検討会に、私立の幼稚園長等が出席されて、今後これを本市の基準にしたいと話したところ、ぜひ進めてください、基準があったほうがいいということでした。幼児教育はいろいろな考え方がありますが、アプローチ・スタートカリキュラムは、本市の小学校に入る前には必要なこととして共通にやっていったほうが良いと思っています。

●大谷委員

保護者や子どもが実際に小学校入学前に一番大きい不安は何かというと、小学校で授業が受けられるのか、座学ができるのかということだと思います。生活習慣などももちろん大事だと思いますが、学習そのものに対してのハードルが低いような気がします。保護者が幼稚園等にどこまで求めているのかはわかりませんが、私が保護者だったらそう思います。

●鈴木教育長

スタート・アプローチカリキュラムはそういった不安を解消するためのもので、この5歳児1月～3月にあるような内容が、子どもができていれば、大谷委員がおっしゃるような心配はいらないと考えていいと思います。ただ、文字の読み書きについては、幼稚園でどこまでやるかという議論は残っています。これから保護者にもわかりやすい形で説明が必要なポイントだと思います。

●大谷委員

幼小中一貫教育として幼稚園ではここまでやっているのだから、家庭教育をこの辺までやっていただくとスムーズに進みますというようなことを伝えると、保護者にすごく安心感を

与えられると思います。だからといって、これがチェックリストになってノルマになってしまうと、逆に不安になってしまうかもしれません。

#### ●豊田委員

アプローチ・スタートカリキュラムにあるような内容は大きな共通の目標で、その方法は各園によって違うと思います。園と同じようなことを家でもやるとか、園と家庭の働きかけが大切だと思います。

#### ●前嶋委員

アプローチ・スタートカリキュラムにある5歳児の姿の中に、小学校に期待感を高めるという思いでいて1年生になっていくというときに、1年生で求めているものは何かという逆算におろしていくわけではないですが、友達と仲良くできるとか、人の話が聞けるとか、そういうものを順番に幼少期から培われていったらいいなと思います。例えば、「文字を書いたり読んだりする楽しさに気付き、生活の中で使う」ということであれば、絵本を読んだり支援室のカルタを使ったりということがあれば、いつのまにかある程度できるようになって、1年生になっても安心だよとなる。そういうような流れになっていくと分かりやすいかなと思います。1年生で求めているものが、求めているものにあわせていくわけではないですが、人間関係にしても、生活習慣にしても、学びに向かう力、先生のほうに向いて話を聞くことができる、片付けができるとか、そういうようなものを持っているとわかりやすいのではないかと思います。

もうひとつ、資料に実践例がありますが、この中の吹き出しの部分が大事だと思いました。この中に幼少期に小学校につながる学びや育ちがたくさん入っていると思います。今日も幼稚園の産官会がありました。そこで例えば、紙飛行機を飛ばすことは投力を育てるよとか、折り紙でなくても新聞紙で折ると自然にできるようになるよとか、保護者が、あ、そうかと気づくような、そういうものができていったらスムーズな流れの中のできるのではないかと思います。

#### ●鈴木教育長

これは途中経過なので、本日いただいた御意見を参考にしながら進めていきます。私自身がこれをぜひ作ってほしいと思ったのは、幼児教育が何をやっているのか外からはわからないので、遊びの中の教育的な要素、理屈をきちんと取り出して説明したかったものです。幼稚園は託児所でなくて、教育機関だということを明示したいと考えて、幼稚園でやっている遊びの教育的な意味を整理したものです。それで幼稚園を選ぶ親が増えることを期待して、こういうことをやっています。また、幼稚園教師が、自分たちが日常にやっていることは子どもたちにとってどんな意味と価値を持っているのかということをも改めて整理してもらいたいこともあります。

本案は、原案のとおり承認することとします。

### (3) 協第 52 号 就学前の子どもの教育・保育のあり方に関する基本方針（案）について

#### ●すこやか子ども課長

本件は、9月の定例教育委員会で中間報告として御協議いただいたものについて、その後、市議会やあり方検討委員会において協議いただき、加筆修正をしたものです。前回の内容から変更のあった主な箇所は、課題について3ページにある3項目を追加しました。今後10年間は、公立幼稚園については原則として、1小学校区に1幼稚園を存続させて、将来的には人口推移や保護者ニーズの動向などを見極めながら状況の変化に対応することとします。また、公立保育所については、近隣幼稚園と統合した認定こども園化を検討していきます。その他詳細は資料のとおり。

#### [質疑・意見]

#### ●鈴木教育長

なぜ、公立幼稚園を1小学校区に1つ残すのかということ、本市の公立幼稚園は、幼児教育の研修や実践の基準的な役割を担い、特別支援教育については先導的な役割を担うと考えるためです。一番大切な趣旨はそういうことで、そういう方針をこの委員会に出していきながら進めているところです。これについて、検討委員会の委員から何か意見がありましたか。

#### ●すこやか子ども課長

意見としては、公立と私立の連携が大事だということ。基本方針において、公立幼稚園が主体となって進める内容を具体化してほしいということ。これは、アプローチ・スタートカリキュラムにあたるものだと思います。また、保護者の立場としては、安心して小学校に通えることが願いであり、幼保それぞれから小学校に入るので、横のつながりとして公立幼稚園が中心となって取り組んでくれると安心できるなどの御意見がありました。このほか、今後10年を見据えた方向性はこれでいいが、そろそろ限界に来ているため、その後については、地域コミュニティも盛んにおこなわれているが、それとは別の角度から教育は教育として大ナタを振るってドラスティックな方向性を視野に入れて検討する必要があるのではないかと御意見もありました。なお、ソフト面としては、本市が特徴としている考える力、思考力は、今後間違いなく大事になるであろうという御意見でした。

#### ●前嶋委員

公立幼稚園が先導的な役割を担うとありますが、公立幼稚園に通う子どもたちが少なくなってきたので、小学校に入ってから人間関係も公立幼稚園の子ほうが弱いところもあるように思います。公立幼稚園の先導的な役割を強く求めます。

#### ●大谷委員

公立幼稚園には、基準的役割と先導的役割の2つがあって、先導的役割は、本市がこれまで取り組んできた特別支援教育について自負するところがあると思います。

#### ●鈴木教育長

もうひとつ、幼児教育の無償化に関して、幼稚園と保育園の嗜好をどのように変えていくか読めないところがあります。無料なら保育園のほうが長く預かってくれていいという

ことになると、ますます保育所の待機児童が増える可能性があります。

●すこやか子ども課長

今後のスケジュールとしては、この案を12月の市議会にかけて、1月にパブリックコメントを行い、2月にあり方検討委員会を開き、最終的には3月の定例教育委員会で策定する予定です。

●鈴木教育長

本案は、原案のとおり承認することとします。

#### (4) 協第53号 袋井市子ども・子育て支援事業計画の中間見直し(案)について

●すこやか子ども課長

本件は、平成27年3月に策定した同計画の5箇年計画の中間年である本年度に中間見直しをすることとされており、平成28年4月1日時点において、実績値が計画値と10%以上の乖離がある場合、また平成29年度末以降も受け皿の整備が必要な場合において、原則的に見直しが必要とされています。本市においては待機児童が発生しており、加えて実績値が計画値と10%以上の乖離があるため、教育・保育の計画の見直しをするものです。また、地域子ども・子育て支援事業の一部についても、同様に見直しをいたします。詳細は資料のとおり。

[質疑・意見]

なし

●鈴木教育長

本案は、原案のとおり承認することとします。

#### (5) 協第54号 (仮称) 袋井南認定こども園の整備について

●すこやか子ども課長

本件は、保育所のニーズが高まり、幼稚園の入園者数が減少していること、施設の老朽化が進んでいることなどを鑑み、袋井南幼稚園、高南幼稚園、袋井南保育所を統合し、公立認定こども園を新設する計画です。その他詳細は資料のとおり。

[質疑・意見]

●前嶋委員

これまでは、袋井南幼稚園と袋井南保育所だけとっていて、ここで高南幼稚園が入っているのを初めて知りましたが、人数が多すぎませんか。

●すこやか子ども課長

山梨幼稚園は 300 人を超える規模で運営をしています。袋井南に高南を加えた理由は、就学前の教育・保育のあり方にもありますが、今後 10 年間はこのままいきますが、その後については、中学校区を圏域としてこども園の方向性を考えるということで、10 年後以降のことも考えて 3 園統合としています。

●前嶋委員

これができる、他の保育園から集まってくるということも考えられますか。

●すこやか子ども課長

待機児童を考慮して、保育所の 90 人定員を保育部 120 人定員にしています。

●大谷委員

袋井南地区と高南地区と幼稚園が一つになるなら、袋井南小学校と高南小学校との学区に必然性がなくなりませんか。

●学校教育課長

小中学校の学区は字名で分かれていて、決められています。

●豊田委員

同じ幼稚園から違う小学校に進学するのは、他市町では珍しいことではないと思います。

●鈴木教育長

本案は、原案のとおり承認することとします。

**【報告事項】**

**(6) 報第 112 号 「(仮称) 袋井市教育施設等 3 R プロジェクト」の基本的な考え方について**

●教育企画課長

本件は、昨年度末に教育施設 10 箇年計画の見直しを行い、その中で教育施設のマネジメント計画を 29 年度から 31 年度の間に策定することとしています。これがマネジメント計画にあたるものです。平成 29 年、30 年で、長寿命化計画を含めた個別計画を策定してくということで、今回はその計画の基本的な考え方をまとめたものです。国では公共施設の総合管理計画を策定することとされており、本市においても平成 28 年 5 月に策定をしました。これに基づき、平成 32 年度までに個別施設計画を策定することとしています。ポイントとしては、長寿命化の実施計画であるということ、全ての施設ごとに策定をすること、平成 32 年度までに策定することです。教育施設は市の公共建築物の 60% を占めており、築後 30 年から 40 年経過していて老朽化が進行しています。長寿命化を図るためには、現在の水準以上の施設水準まで引き上げていくことが求められています。計画の視点が Repair 老朽化への対応、Renewal 性能水準の引き上げ、Reduce 規模・配置の見直しの

3点あり、頭文字の3つのRから3Rプロジェクトとしています。また、今後改築をする場合は、1、2階建てであれば軽量鉄骨でも対応可能であることから、視野に入れて検討いたします。その他詳細は資料のとおり。

[質疑・意見]

なし

## (7) 報第 113 号 袋井市立小中学校における児童生徒数等の動向と課題について

### ●教育企画課長

本件は、児童生徒数の推移と課題についてまとめたもので、特別支援学級の増により、今後、山名小学校と袋井中学校に教室の不足が見込まれるため、校舎のリース等計画的な施設整備を検討することを報告するものです。

[質疑・意見]

### ●鈴木教育長

特別支援学級入級率について、国や県との比較のデータはあるか。

### ●学校教育課長

今は持ち合わせていないが、他市町と比較すると、本市は特別支援学級への入級率は高い。

### ●教育企画課長

磐田市や掛川市も、特別支援学級の人数は若干増加傾向にあります。本市のほうが入級率は高いです。

### ●育ちの森所長

特別支援学級への進級については、就学指導の段階で保護者が選択権を持っていますが、早くから子どもの特性・個性を理解して、最もやりやすい教育環境を選んでいるということもあって、増えているということが考えられます。特別支援の場合は、IQが50台から70台くらいですが、実はIQがもっと高い子で、やりにくさを抱えている子があると思います。しかしこのほかに、通常級の中に6.5%の発達障害の子どもがいます。本市では今、その支援が円滑にうまくできているので、大きな問題になっていないのではないかと思います。

### ●鈴木教育長

このグラフについては、支援が必要な子どもたちに支援が行き届いていると読んでいます。

(8) 報第 114 号 袋井市「学校給食献立コンテスト」の取りやめについて

(9) 報第 115 号 学校給食における喫食率及び摂取カロリーについて

●おいしい給食課長

報第 114 号は、例年行っていた学校給食献立コンテストについて、県教委が同様の事業行っていることから業務の見直しを図り、とりやめるものです。

報第 115 号は、本年度 1 学期の小中学校の給食の喫食率と摂取カロリーを報告するものです。喫食率の低い学校については、栄養士等による学校訪問の増、給食準備・配膳時間の改善等を図り、残食の減をめざします。

[質疑・意見]

●大谷委員

喫食率の一番低い学校の数値が、他学校と比較して差がありすぎると思う。同じ給食センターから同じ献立が提供されているにもかかわらず、差異が大きいというのは何か原因があると思う。しっかり分析してほしい。

●おいしい給食課長

同校区内の幼稚園も低い状況にある。

●学校教育課長

学級がきちんと指導されているところは給食の残菜が少なく、逆に、課題を抱えている学級は給食の残菜が多いという傾向はあります。

●前嶋委員

給食センター別に比べると、皿数や品数の多少がありますが、数が多いと配膳・片付け時間も長くなるし、子どもたちが食べるのも大変な気がします。食材を合わせられるものは一つにするなど、数を減らす工夫を栄養士にお願いしたいと思います。

●上原委員

喫食率については、個人の好き嫌いもあるが、給食の時間、学級の雰囲気もやはり大きく影響すると思う。

●鈴木教育長

大規模校は、何をやるにしてもどうしても時間はかかると思う。

(10) 報第 116 号 袋井市子ども・子育て会議委員の委嘱について

●すこやか子ども課長

本件は、前任者の任期満了による同会議委員の委嘱について報告するものです。委員の氏名等は資料のとおり。

(11) 報第 117 号 寄附金の受納について

●すこやか子ども課長

本件は、ニチアス株式会社様より寄附金をいただきましたので報告するものです。この寄附金は、市内公立幼稚園 6 園に図書を購入する予定です。

## (12) 報第 118 号 指定学区外就学及び区域外就学の許可について

### ●学校教育課長

本件は、本年度4月から9月までに、指定学区外就学及び区域外就学を許可した内容を報告するものです。詳細は資料のとおり。

## (13) 報第 119 号 浅羽西公民館（事務室）の一部増築について

### ●生涯学習課長

本件は、本年度実施する浅羽西公民館事務室の一部増築について進捗状況を報告するものです。事務室を拡張し平均的な広さを確保します。また南側にコンクリートの土間を作り交流ゾーンを設けます。現在、建築確認申請を行っており、許可がおり次第、工事に入ります。

## 7 その他

## 8 閉会

(午後4時20分閉会)